

第9期 第2回 外国人市民会議のまとめ

〔日時〕 令和3年(2021年) 12月13日(月曜) 午後7時から午後8時40分

〔会場〕 市役所 第一庁舎 4階第1会議室

〔出席者(敬称略)〕

委員:

- ・アスマ スルタナ
- ・汪 穎
- ・片山 フィオナ エリザベス
- ・洪 玉英
- ・フロール カラビア サンティアゴ
- ・滝本 クラウディア
- ・アディカリ スザン バハデュル
- ・劉 国相

事務局: 山本人権文化政策監、堀山人権政策課参事兼課長、片岡課長補佐、廣田主査、野邊

〔傍聴者数〕 0名

〔会議内容〕

開会

案件1. 前回会議の振り返り

→ 資料2 『第9期第1回外国人市民会議のまとめ』を用いて、振り返り

案件2. 外国人の担い手に関する取組みについて

→ 資料3 『他の団体での取組み事例』を用いて、他団体事例の紹介

委員より取組みについて以下のとおり紹介

【以下意見】

・尼崎市で多国籍会議の担当をしている。参加できる人は、日本在住の外国人と、海外在住

の日本文化に興味を持っている外国人。

多国籍会議の目的は、国、民族を超えて様々な人の顔が見えるプラットフォームづくり。

コロナ禍で、支援活動の実施は難しくなったが、対面だけでなくオンラインも活用して様々

な事業を実施した。特に人気のあった事業は料理交流会。食を通じたイベントは人気が出

やすく参加もしやすい。同会議のスタッフは外国人が中心。外国人にとって望ましいのは、地域の人と交流をすることだと思ふ。地域で行ったイベントは、外国人に向けた支援だけでなく、地域に住む子どもや高齢者にとっても支援のきっかけとなる事業になった。

・アメリカやヨーロッパで行われている活動について紹介したい。アメリカやヨーロッパには移民が多く、交流の必要性が謳われている。

一つはヒューマンライブラリー。図書館で本を借りるように、地域に住む外国人の時間を借りる事業。その時間でその国の文化を学ぶことが出来る。

次に、家庭交流。文化の交流の場を作るために、そのプログラムに登録し、違う文化をもつ家庭同士で交流する。

支援活動の紹介ではないが、外国人支援のためには国際化の町を作る必要があると思ふ。

日本の社会の中で、外国人の認識に違和感がある。バス停など、市内の様々な場所に多言語表記をし、地域に住む日本人に向けて、身近なところに外国人が住んでいるという認識を持ってもらうことで、その違和感が少しずつなくなっていくと思ふ。

・他市には、外国人が病院に行くときに、日本語が出来る外国人が支援を行う仕組みがある。また、外国人の小学生が学校に行くときに、日本語が出来る外国人と一緒に授業を受けるなどして学校生活を支援する仕組みがある。

・国流で沢山の事業を行っているが、何をしている場所か知らない人が多い。

医療について、日本語が分からないから病院に行かない判断をする外国人がいる。医療支援は必要。

コロナ禍でイベントが少なくなっている。子ども向けのイベントが出来れば。

・大阪大学の中に、研究科ごとに留学生相談室がある。各研究科に留学生が入ったときに、まずそこに挨拶をすることになっており、相談室は研究科にいる外国人の情報を詳しく知っている。例えば、同じように国際交流センターの職員を地域ごとに担当分けし、その地域のことを詳しく知っている職員がいるといい。外国語の言語交流があると、日本語を学びたい外国人や、他の言語を学びたい日本人との交流が図れる。留学生としては友達を作りやすい機会である。

いま さまざま かつどう さんか  
・ 今まで様々な活動に参加したが、どこの地域でも外国人に対する支援は存在すると思う。  
こんごがいきじん む かつどう しえん おこな とき がいきじん ひつよう があるから じっし  
今後外国人に向けた活動・支援を行う時に、外国人にとって必要があるから実施しているの  
かを明確にしたほうが、より効果的な事業を行うことができる。問題を解決しようとするだ  
けではなく、問題の原因は何か、その原因に対して何が出来るかを深く考える必要があると  
おも  
思う。

にほん う じぶん こ ほか こ まえ がいきじん ひじょう  
・ 日本で生まれた自分の子どもが、他の子どもに「お前は外国人だ」といじめられる。非常に  
かな おも  
悲しく思う。

こくさいこうりゅう せん た - じっし こ ははおやむ きぼ - と じぎょう  
・ 国際交流センターで実施している、子どものいる母親向けサポート事業「おやこでにほん  
ご」に参加していた。参加者同士で情報交換や相談が出来るため、また、外国人にとってひ  
とつの居場所になるため、とてもいい事業だと思った。

こくさいこうりゅう かい うんえい さばな れすとらん がある。その レストランで  
国際交流の会とよながが運営しているサパナというレストランがある。そのレストランで  
は、日本で暮らす外国人が自分の国の料理を提供している。職場内で悩みを共有しながら  
はたら ば  
働く場になっている。

こくさいこうりゅう せん た - おこな しょうがっこうがいきこごほうもん ぶる ぐらむ しょうがっこう ほうもん しゅっしん  
国際交流センターが行っている小学校外国語訪問プログラムで、小学校に訪問し、出身  
くに ぶんか しょうかい  
の国の文化を紹介したこともある。

### あんけん いけんこうかん 案件3. 意見交換

→ 案件2の内容を受けて、「地域に住む外国人が『支援する側』としてできる事、出来そうな  
こと」について、以下のとおり意見交換

#### い かいけん 【以下意見】

こうれいかしやかい なか がいきじん ちいき す こうれいしゃ む なに できる かんが けんきゅう  
・ 高齢化社会の中で、外国人が地域に住む高齢者に向けて何が出来るか考えた。ある研究  
では、外国語を覚えようとする、外国語に触れることで認知症の予防に効果があるという  
けっか で ちいき す こうれいしゃ たい とよなか す がいきじん しえん がわ かつやく  
結果が出ている。地域に住む高齢者に対して、豊中に住む外国人が支援する側として活躍  
できるかもしれない。少しでもそういう活動をしたい外国人に、日本人のために何か活動  
してもらうことで、日本人に向けて地域に外国人がいる、外国人が活動しているという意  
しき きたい  
識づけが期待できる。

・ 会議の内容から少し離れるかもしれないが、脳を働かせている人と、働かせていない人では、平均寿命に差がある。脳を使う人の方が寿命が長い傾向にある。

・ 日本語教室に通っていた人の話だが、日本語教室の参加が、日本語があまりできない人に限られているため、日本語2級を取ったために教室に参加できなくなった。居場所がなくなり、また、日本語を学びたいのに学べる場所が無く困っている。日本語を学ぶ場所や、日本語教室を出た外国人などが支援者として日本語を教えることが出来る場所があるといい。

・ 日本語が出来る外国人が、外国人に日本語を教えたら、外国人が支援する側として活躍できるのではないかと思う。オンライン（Zoom など）や、YouTubeなどで、自分の国の紹介や、料理教室などの交流ができれば良い。

・ 小学校の参観に、お母さんたちも一緒に参加できる、出身の国の紹介や交流を行った。外国人の生活がみえる交流があれば

・ コロナ禍で母国に帰れない外国人の子どもがいる。日常の中で日本語を勉強するうちに、母国語を忘れてしまう子どももいる。外国人のお母さんたちが、子どもに母国語を教える機会があればいいと思う。

・ 市民参加において、情報発信は一番の課題であると思う。外国人が何か活動を行っているとしても、その活動をどれくらいの人知っているか、どれだけの人参加できるかが重要である。自分が参加した日本語教室などの活動も、最初は通っている大学から情報を受け取った。そこには豊中市の情報だけではなく隣接市（池田市や箕面市など）の情報もあった。それぞれの市で似た活動があったとしても、外国人が自分の生活に合わせて選んで参加できるため、他市の情報も一緒に提供できればいいと思う。

・ 今後外国人が活躍する活動をするのであれば、企画の段階で外国人に入ってもらえる必要があると思う。

→ 「市や国際交流センターにしてほしいこと」について、以下のとおり意見交換

【以下意見】

・外国人の高齢者や、子育てが終わった世代に向けたイベントがあればいいと思う。既に子育て世代や若者に向けた事業はあるが、子育てが終わったなどの理由で、行く場所に困っている外国人が参加できるイベントが少なく感じる。地域に住んでいる外国人のことを心配している人もいるため、地域の人であつまってものづくりや料理に関するイベントがあればいいと思う。

・今までの意見を聴いて、外国人と日本人が互いに知り合う必要があると感じた。市や国際交流協会には、地域コミュニティや公民館、地域センターの強化をしてほしい。それぞれの施設に外国人の相談窓口やキーパーソンの配備が出来れば、地域の外国人に向けた情報発信や支援が出来る。

・地域別に活動できる人や相談できる人を作つて、地域に住む外国人をまとめることが出来れば良いと思う。少子化の中で、外国人住民の力は地域に必要ななってくると思う。市や国際交流協会に、Facebook や LINE で相談できる仕組みがあればいいと思う。もっと市内に住む同じ国籍の人とも、また異なる文化をもつ人とも交流したい。もっと外国人同士がコミュニティを作りやすいように支援してほしい。

・国に直接関係するイベントをしたり、学校の先生が生徒の国の文化を紹介していくことが良いと思う。今後そういうイベントや事業を行う時に、外国人の意見を聴きながら実施してほしい。

子どもや子育て世代の悩みを聞いてくれる、カウンセラーのようなものが国籍ごと、言語ごとで必要になってきていると思う。

・豊中市は、コロナ禍の影響もあつてか、子どもが集まって遊べるような遊び場が少なくなっている。遊び場が増えたらいいと思う。

あんけん  
案件4. その他

→ ニューズレターに ゆーず れ たーの作成さくせい、配架等はいかとうについて事務局じむきょくより報告ほうこく

がいくにひとむ あんけん と ちょうさおよ ひありんぐ ちょうさ けんきゅうほうこくかいにっぺい じかい かいぎ にっぺい  
外国人向けアンケート調査及びヒアリング調査の研究報告会日程と、次回会議の日程につ  
いて情報提供じょうほうていきょう

へいかい  
閉会